

産地戦略

実施期間 令和8年度～令和12年度

実施主体 藤津農業指導者連絡協議会
都道府県 佐賀県
対象地域 鹿島市、太良町
対象品目 イチゴ（促成・施設）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

近年は温暖化の影響等により微小害虫の発生が増加傾向にあり、薬剤散布回数の増加と共に、薬剤抵抗性の発達が問題となっている。また、国においては「みどりの食料システム戦略」が制定され持続可能な農業に取り組むことを目標としている。

そこで、当地域のイチゴ栽培に適した天敵及び交信攪乱剤の利用により、化学合成農薬の使用を削減したハダニ、アブラムシ、及びハスモンヨトウの防除体系の普及拡大を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	薬剤散布	薬剤散布				薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	薬剤散布	定期的な化学農薬の散布
技術名	化学農薬によるローテーション防除					化学農薬によるローテーション防除							薬剤抵抗性が発達しないように異なる系統の農薬を使用

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	薬剤散布	薬剤散布				薬剤散布 交信攪乱剤投与	薬剤散布 天敵放飼			薬剤散布 天敵放飼		薬剤散布	定植前の9月にコンビューアーを設置。10～11月にハダニ天敵（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）、アブラムシ天敵（コレマンアブラバチ）を放飼。1～2月にハダニ天敵（チリカブリダニ）を追加放飼。
技術名	天敵を活用した防除					天敵を活用した防除							天敵への影響を考慮した化学農薬の選択と散布

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	9	9	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1	2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1	2	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材及び交信攪乱剤を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減 農薬散布回数の削減による省力化
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	26	▶ 19	ハダニ防除 9 回→ 6 回に削減 アブラムシ防除 8 回→ 6 回に削減 ハスモンヨトウ防除9回→7回に削減
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培研修会等で作成した栽培マニュアル（チラシ、ポスター）を配布して情報発信を行い、生産者に技術を周知して普及を図る。また、ホームページで公開し、広く周知することで導入面積と戸数の拡大を図る。

関係者の役割

関係者名	JA	普及		
役割	生産部会への波及	情報発信・技術指導		